

火山の観測体制

気象庁では、東京・札幌・仙台・福岡に設置した4つの「火山監視・情報センター」で、全国の活火山の火山活動を監視しています。具体的には火山活動を監視カメラで常時観測するほか、泥流を感知するワイヤーセンサーや、火山活動に伴う山体の膨張などを調べる機器（GPS）の設置、その他火山性微動などの計測を行います。

樽前山は、常時観測火山として、気象庁の観測データに加え、自治体や大学など研究機関から提供を受けた多種多様なデータを収集し、火山の活動状況を24時間監視し、総合的に診断しています。



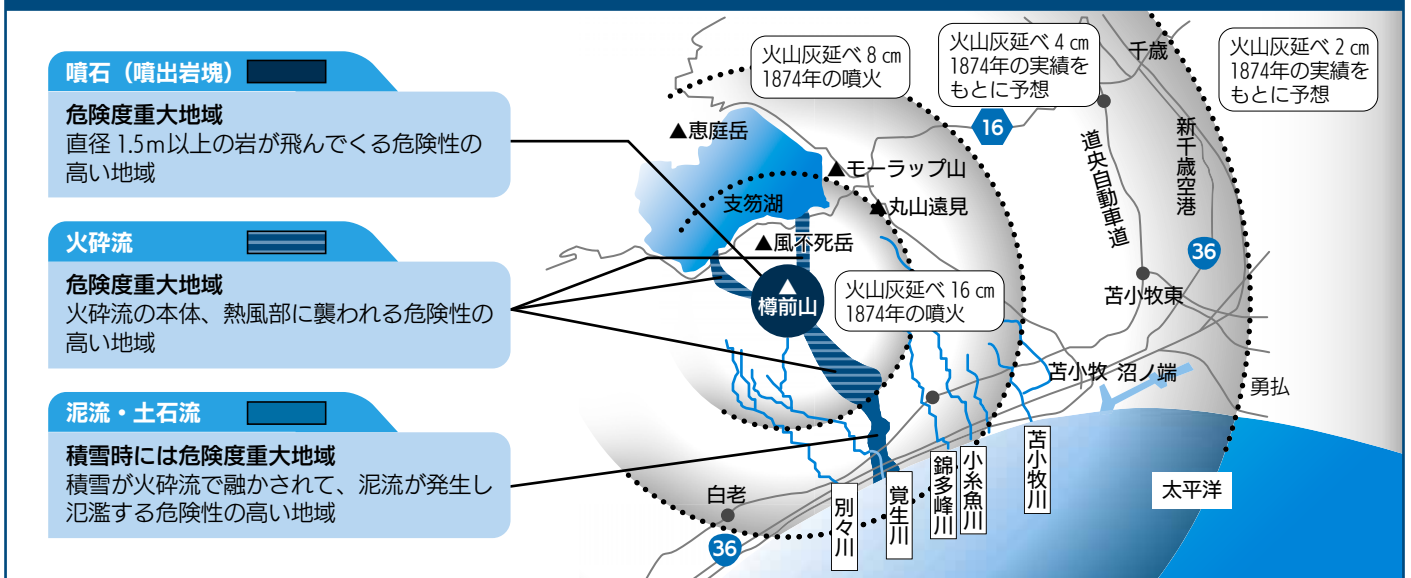
中規模噴火の可能性が有る樽前山

樽前山は、約9千年前に誕生した活火山です。約3千年前に2回噴火し、江戸時代には1667年と1739年に大規模噴火が発生したことが記録として残されています。

江戸時代以降は現在の山の姿である、溶岩円頂丘となった、中規模噴火（1909年（明治42年）をはじめ、中規模や小規模噴火を度々繰り返しています）

今、樽前山の噴火災害として、一番可能性があるのではないかとされているのが、中規模噴火または小規模噴火です。

樽前山火山防災ハザードマップ 中規模噴火 1874年（明治7年）と同規模の噴火が起こった場合



▲市ホームページや市内全戸配布の防災ハンドブックにも掲載されていますので確認しましょう

噴火警戒レベルとは

「ニュースなどでよく耳にする「噴火警戒レベル」という言葉、皆さんは正しく理解していますか。噴火警戒レベルとは、火山活動の状況を噴火などの危険範囲や必要な防災対策を踏まえて5段階区分したものです。火山活動の状況に応じて、噴火警報などを発表し、避難などの呼び掛けを行います。

| 警報・予報 | 対象範囲 | レベルとキーワード | 火山活動状況 |
|----------------|---------------|------------------|---------------------------------------|
| 噴火警報 (居住地域) | 居住地域及びそれより火口側 | レベル5 避難 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生あるいは切迫している |
| | | レベル4 避難準備 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される |
| 噴火警報 (火口周辺) | 火口から居住地域近くまで | レベル3 入山規制 | 居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生すると予想される |
| | 火口周辺 | レベル2 火口周辺規制 | 火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生あるいは発生すると予想される |
| 噴火予報 | 火口内等 | レベル1 活火山であることを留意 | 火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出などが見られる |